



羽合小学校 学校通信

平成27年5月19日 NO.15

心を鍛える

みなさんも様々なジャンルで愛読書をお持ちのことと思いますが、私も歴史小説が好きで、津本陽の「薩南示現流」（16世紀末の九州島津藩で示現流という流派を興した東郷重位を主人公にした作品）や柴田錬三郎の「三国志 英雄ここにあり」（3世紀の中国で戦乱興亡の中で活躍するたくさんの英雄を描いた作品）などを愛読しています。その柴田錬三郎は「眠狂四郎」や「御家人斬九郎」など剣客を扱った作品を多く発表し、歴史小説に新しい動きを作り出した人物ですが、エッセイの中で、修行について書かれたものがあります。対照的な二人の剣豪の修行を比較したものです。

「剣豪と称される兵法者は、二種類に分けられる。生まれつきの才能を所有して、無謀と思われる真剣勝負を繰り返して、無数の死地をくぐり抜けたタイプと、天才ではなくても、禅学の修行によって、精神修養に励んだ努力家と、いずれかの立場を実践して後世に名を残している。」（どうでもいい事ばかり 集英社より）

前者の代表は宮本武蔵で、後者は柳生但馬守宗矩が代表だとの評です。どちらの修行が立派なのか、良いのかについて判断は難しい

ことなのだと思います。しかし、江戸時代の幕末の動乱期になると、剣禅一如の兵法を学ぶ人達が非常に多くなってきます。変化の激しい動乱の時代には特に、修行で鍛えた技術と心が大切なのかもしれません。

残念ながら31歳で暗殺されてしまいますが坂本龍馬は北辰一刀流を学んだ人物です。幕末に薩長同盟の締結に奔走し、大政奉還に大きな役割を果たした人物ですが、自分が31歳までに坂本龍馬のようなことができたかどうかと考えると、修行によって鍛えられた心の持ちように大きな違いがあるように思います。

現在の社会も、先の見通しはつきにくく変化の激しい時代だと言えるのではないのでしょうか。そんな現在と未来に生きるこどもたちも心を鍛えることは大切なことだと感じます。算数で何を学ぶか、学校で何を学ぶか、家庭で何を学ぶかをわたしたちも考えなければなりません。算数では計算ができるといった直接的な学びも大切ですし、ドリルや宿題に根気よく取り組むといった努力を学ぶことも大切ですし、みんなのできるといった人間関係の中で学ぶといったことも大切です。いずれにしても心を鍛えるといった視点をわたしたちは持ち続けなければならないのだと思います。

【御礼】

昨日、17日（日）のPTA親子環境整備作業にたくさんの参加ありがとうございました。おかげさまで、さわやかな環境で運動会を迎えられます。早朝から最後まで本当にありがとうございました。羽合小学校 寺谷英則

【お知らせ】 毎月25日は給食費の振替日です。 ご確認いただきよろしくお願いします。